

やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第6号 発行日：平成23年12月1日
 発行元 NPO法人あさお市民活動サポートセンター
 〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5
 TEL. 044-951-6321 FAX. 044-951-6467
 発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子

川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり

目次：

やまゆりのインキュベーター(孵卵器)機能について	1
レポート やまゆり号は行く、高石の山坂を！	2
A【安心】 身近なセーフティネット 「防犯パトロール」を考えよう	2
S【サプライズ】 タヌキの巣穴が減っている。 人との関係が深い タヌキ	2
A【アミューズメント】 川崎市アートセンター	3
O【お役立ち情報】 気軽にボランティア！	3
参加者募集！ やまゆりから セミナー受講者、スタッフなど	4

やまゆりのインキュベーター(孵卵器)機能について

来

年は麻生区が誕生して30年になる。多摩区から分区した昭和57年当時の人口は97,700人、それが平成23年10月には171,000人と1.75倍になっている。人口増加に伴い、いろいろな問題も起きている。その一つに、町内会・自治会など（以下町会）小地域における地元意識や連帯感の希薄化。それらがもたらす町会の加入率低下や町会活動への無関心さがある。

地元意識や連帯感を高めるには、どんな方法があるのだろうか。104町会が加入する麻生区町会連合会発行の「町会・自治会ハンドブック」では「地域に住む人たちが、日ごろの交流を通じて連帯と親睦を深め、地域におけるさまざまな課題解決に取り組み、明るく住みよいまちづくりを目指す」とし、日頃の交流を課題解決の前提条件にしている。

「麻生市民交流館やまゆり」（以下やまゆり）の運営組織である「NPO法人あさお市民活動サポートセンター」（以下NPO法人サポセン）は、「麻生区を生活・活動の場としている人々に対して、やまゆりを通して、その交流及び活動支援に関する事業を行い、住みよいまちづくりに寄与することを目的とする。」と定款にうたっている。区民の交流と活動

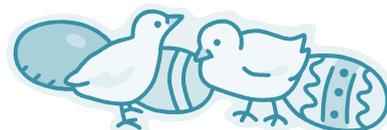
を支援することで、地域の課題を解決する一助になりたいと願っている。それには個人の価値観や生活環境にとらわれず、だれもが気軽に参加できる夢のある別の空間を提供、いろいろなイベントなどの開催が必要と考える。

そのため、NPO法人サポセンでは中間支援機能をさらに進化させ、一見やまゆりの設置目的とかけ離れていると誤解されるような寄席や歌声喫茶なども開催。区民の交流をすすめると共に、活動を通してさまざまなノウハウや人材を蓄積し、町会など小地域に提供。小地域での交流ツール（媒体）として活用していただき、交流促進に寄与したいと考えている。

やまゆりではこのツールを核にした新しいコミュニティの誕生を期待している。換言すれば、やまゆりは新しいコミュニティを生み育てるニューモデルの孵卵器でありたいと考えている。

地域で新しい事業や活動を考えている方は、是非一度やまゆりをのぞいて見てください。なにか新しい発見があると思います。お待ちしております。

理事長 竹市八郎





Anshin 安心

身近なセーフティネット 「防犯パトロール」を考えよう

麻生

警察署生活安全課によると、平成14年約2500件あった管内の刑法犯は、平成22年約1100件に減少。理由の一つに防犯パトロールによる抑止効果が考えられている。犯人が顔を見られたり、声をかけられたりすることを嫌がるだけでなく、住民側の防犯意識も高まるからだ。麻生区では平成18年3月に安全・安心まちづくり協議会が設立され、防犯パトロールの登録制度ができた。現在自治会、PTAなど66団体が登録。協議会では、ベスト、腕章、帽子の貸し出し、警察による講習会開催などのバックアップを行っている。

550世帯、2200人の住民が暮らす三井細山自治会でもパトロールを行って

いる。自治会サークル「まつりの会」の固定メンバーは、週1回午後10時から30分ほどと、週1回学童下校時の通学路見守りパトロール。犬の飼い主による「ワンワンパトロール」は、防犯の腕章をして犬の散歩をするもので、時間、回数、ルートは自由。現在150名が登録。自治会長の秋山武雄さんは、



三井細山自治会の秋山武雄会長さん

「おかげで大きな犯罪もなく、立ち話などで得た情報もいち早く住民に知らせ、交番と情報交換しています。ご近所付き合いの力で自らを守るのが目標です」とのこと。

区民記者 久保ひとみ

レポート

山ゆり号は行く、高石の山坂を！

10月12日、本格運行をはじめた2ヶ月目の山ゆり号を、小田急百合ヶ丘駅前取材した。1日の利用客は85人前後で推移している。バスを待つ70代の女性は、「高石5丁目に住んでいるが、坂がきついので、出かけるときは時刻表を調べて、よく利用している。」と笑顔で語った。

居合わせた運営委員会の村上さんによると、バスを東北の会社に発注したが、震災の影響で完成が遅れてしまった。夏の猛暑に間に合わなかったのは残念とのこと。これから冬を迎えて客足が伸びることを期待している。目標利用者数は1日平均100人以上。

15時59分発のバスは、スーパー三和からの乗客3人に、停留所の客6人を加えキッチリ満席で出発した。若い客もいたが、やはり高齢者が目立つ。末長く運行



できるように、応援していきたい。

区民記者 中島久幸

さあ乗ろう。我が家は近い。

●麻生区役所では登録アドレスに犯罪災害火災情報を発信するシステム麻生セーフティメール～ASM：通称「安住(あすむ)」を開始。
問い合わせ先 TEL. 044-965-5372 FAX. 044-965-5201



Surprise サプライズ

タヌキの巣穴が減っている。 人との関係が深い タヌキ

区内の白山・むじなが池公園近くの道路でタヌキの動物標識を見たのを機会にタヌキ(ホンダタヌキ)の動きを調べてみた。緑地と人の環境を利用しながら身近に生息する小動物・タヌキ。夜間、日常的にいぎづいているタヌキの巣穴が開発で減っているようだ。

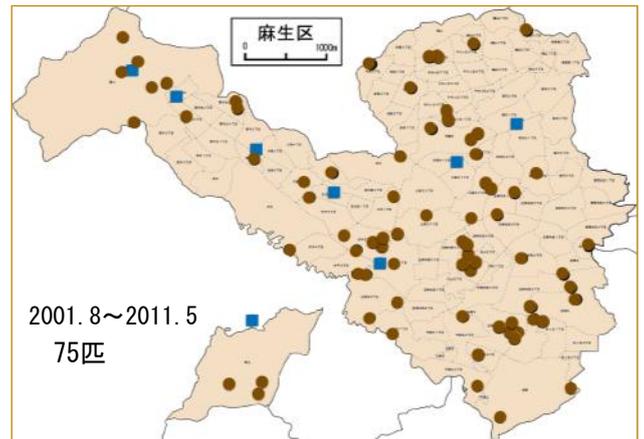
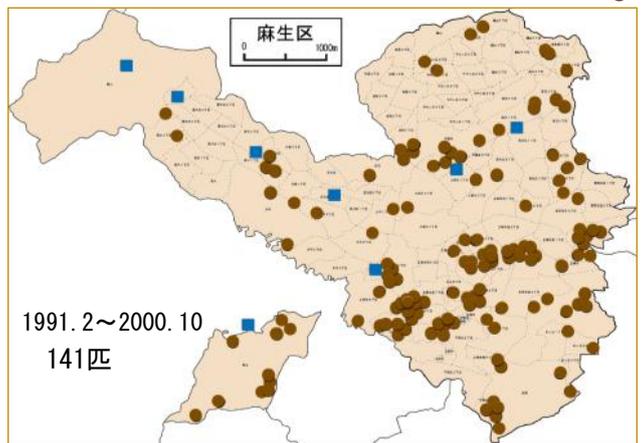
川崎のタヌキを調査研究している川崎市青少年科学館(多摩区枳形)のご協力を得て、区の発展の起点として21世紀の前後10年余で事故死等で発見されたタヌキの個体の場所を分布図にした。図の通り01年以降の事故死等の数が以前の10年余に比べ半減した。数を減らした理由の一つに住める場所の減少があると思われる。

他方、白山、上麻生、下麻生、王禅寺などでは、緑地と緑地が近接し、宅地を行動圏にタヌキはエサを探しにくる。幹線路で輪禍にあうことも多く住民との関係が区内でも深いといえる。多摩線沿線では事故死等が増えた。万福寺は再開発を前後に一部を残し緑地が減りタヌキが住めるような環境が減ったようだ。



皮膚病・疥癬(カイセン)にかかったタヌキ提供・川崎市青少年科学館

区民記者 池山幹夫



●=事故などで死んだタヌキ(1匹) ■=小田急線の駅



アミューズメント



川崎市アートセンター
kawasaki ART center

映像・舞台芸術家のインキュベーター

九ちゃ〜ん！ あの若き日の笑顔。百合丘の開発をテーマにした喜劇映画「駅前団地」が一昨年、昨年と二度にわたり上映され、多くの区民が思い出とともに楽しんだ。提供したのは、川崎市アートセンター。2007年、「しんゆり・芸術のまち」の中核として新百合ヶ丘駅北口にオープンした川崎市の複合施設だ。車いす席2席を含む113席のアルテリオ映画館と車いす席2席を含む195名定員のアルテリオ小劇場のほか、専門機器を整えた映像編集室、録音室などがあ

る。センターの企画主催事業を中心に、「芸術を創り、育て、楽しむ」という基本方針に沿った文化芸術活動に利用されている。映画館では、商業ベースに乗りにくいドラマやドキュメンタリーの中から、「ぜひ多くの人に観てもらいたい」とスタッフが発掘した作品を上映し、割引サービスや会員制度もある。昨年度入場者数3万5千人。12月にはアカデミー賞受賞作品「未来を生きる君たちへ」や懐かしい黒澤明作品なども上映予定。小劇場では地元「劇団民藝」の

公演や、幅広く若手の意欲的な作品を取り上げ上演する。こちらの昨年度入場者数は1万2千人。12月の主催公演はハムレットの改作「ゆめみたい(2LP)」と新進気鋭の演出家の新作パフォーマンス「ポート ヒア、ポート」。新百合ヶ丘周辺の文化芸術団体と提携し、映画祭・芸術祭などの多彩な活動を展開しつつ、「芸術のまち」のコンダクターをめざしている。新たな感動を求めて、出かけてみませんか。

区民記者 飯田保幸



川崎・しんゆり芸術祭2011参加
「5月5日はこどもの日映画館」



振付家 木野彩子氏によるワークショップ
「ゆるやかにのびやかなからだを作る時間」

◆川崎市アートセンター

住 所：川崎市麻生区万福寺 6-7-1

Access：小田急線「新百合ヶ丘」駅北口から
徒歩3分（駐車場なし）

問い合わせ：TEL. 044-955-0107

休館日：毎月第2月曜、12月29日～1月3日 映画館は毎月曜休映（祝日の場合は翌平日休映）

開館時間：9時～22時30分

施設受付：9時30分～19時30分

チケットの購入：センターのチケットカウンターで購入、小劇場は予約もできるが、詳しくは、電話またはホームページで。



Oyaku-dachi お役立ち情報

気軽にボランティア！

長年の勤務や子育てから解放され、日々散歩や旅行そして図書館等で過ごすことにも飽きが出て、何か新しい出会いを求めている方々に、記者の経験と独断で居心地のいいボランティアの活動の場を紹介する。



オペラから落語まで
●芸術の好きな方々へ

「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカ）」

GWの期間中に音楽、演劇など多彩なジャンルの芸術を開催。そして10月～3月までは「アート講座」で芸術家の講座を開催してる。

HP <http://www.artericca-shinyuri.com>

Tel 044-952-5024 担当者 関さん

●サッカー好きの方々へ

「川崎フロンターレ」

川崎フロンターレに一番近い場所で接することができ、等々力競技場の運営を中心に活動(2012年度の募集要項は12月末にHPにて告知)

HP <http://www.frontale.co.jp>

Tel 080-1506-5882(不在の場合は留守電に残してください)

担当者 星見(ほしみ)さん

「KAWASAKI しんゆり映画祭」

8月の麻生小学校での野外上映会から10月の映画祭まで、今年で17年目の歴史を誇る。11～3月まで、ひと「語る」の講座を開催。HP <http://www.siff.jp/>

Tel 044-953-7652 担当者 大道さん

●映画好きの方々へ

これらのボランティア活動に共通していることは、単純作業だけでなく企画アイデア、プロモーション等運営面でもボランティアが関わっていることである。それぞれちょっとした特典も用意されてる。

でも一番の特典は地元のボランティア仲間が増え地域の情報交換を肴に飲み会など楽しく過ごせる時間が魅力かもしれない。

区民記者 本間和雄

参加者募集!

区民のために、区民で運営管理している
「麻生市民交流館やまゆり」では
参加者を募集しています。



●「目指せ！アクティブシニア達のセミナー」

今年で7年目を迎える、シニア定番のセミナー。

そろそろ地域に関心をお持ちのシニアの皆さん（男女を問いません）

申込締切：12月26日（必着） スケジュール：表参照 時間：毎回午前10時から12時



月日	内容（予定）	講師（予定）
1月21日(土)	オリエンテーション 自己紹介	企画委員
1月28日(土)	講座 「麻生区について」	麻生区 区長 瀧崎雅介
2月4日(土)	学級ディスカッション 「これから何をしたいか」	企画委員
2月11日(土)	講座 「シニア世代の地域活動」	かわさき市民活動センター 理事長 小倉敬子
2月18日(土)	講座 「自分の知らない自分の性格」	シニア・ピア・カウンセラー 志賀裕子
2月25日(土)	学級ディスカッション 「グループづくりへ向けて」	企画委員



やまゆり運営スタッフ募集(第5次)

現在40名近くの区民がローテーションで活動。

業務説明会：1月15日（日）10時～11時

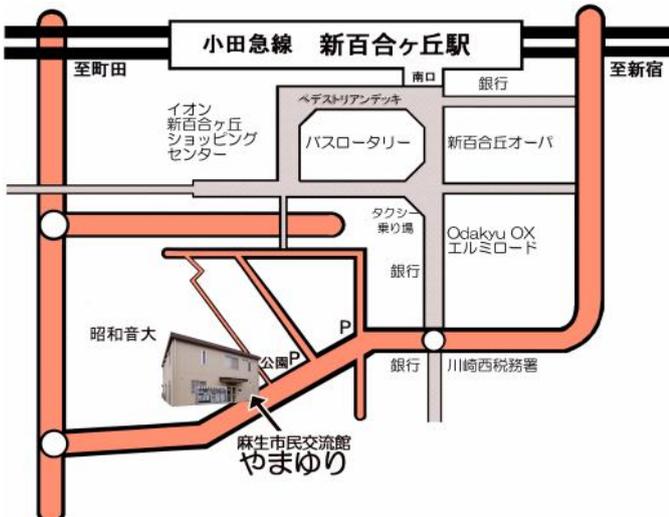
申込受付：12月1日～1月10日（必着）

「ビバ！あさおの子どもたち」企画運営委員

来年も5月20日（日）実施予定。

このイベントの企画運営に関心のある区民

申込受付：12月1日～2月20日（必着）



NPO法人あさお市民活動サポートセンター

●所在地

神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5

TEL.044-951-6321 FAX.044-951-6467

小田急線「新百合ヶ丘」駅 南口から徒歩4分

●開館時間

月～金 9時30分～17時

※平日夜間・土日も予約すれば利用可

●休館日

祝日、年末年始(12/29～1/3)、施設点検日

●ホームページ

<http://web-asao.jp/yamayuri/>